

平成19年度大学入試センター試験英語リスニングテストにおける 不具合等の申し出があった機器の検証結果等について

大学入試センター

1. はじめに

大学入試センターでは、平成19年1月に行った英語リスニングテストにおいて不具合等の申し出があった機器の調査分析を行った。

2. 機器の検証結果

検証の対象としたのは、「解答中に不具合等の申し出があったもの」356台及び「解答開始前の作動確認中に不具合等の申し出があり、機器を交換したも

の」1,090台。ここでは主に「解答中に不具合等の申し出があったもの」の検証結果について述べる。(詳細は下の図を参照)

主な原因は、「⑥再生ボタンの長押し失敗」(47台)と、「⑦受験者が機器の不具合と受けとめたと考えられるもの」(275台)で、あわせて全体の9割を占めている。⑦には、問題音声の無音部を故障とってしまったものなどが含まれていると思われる。

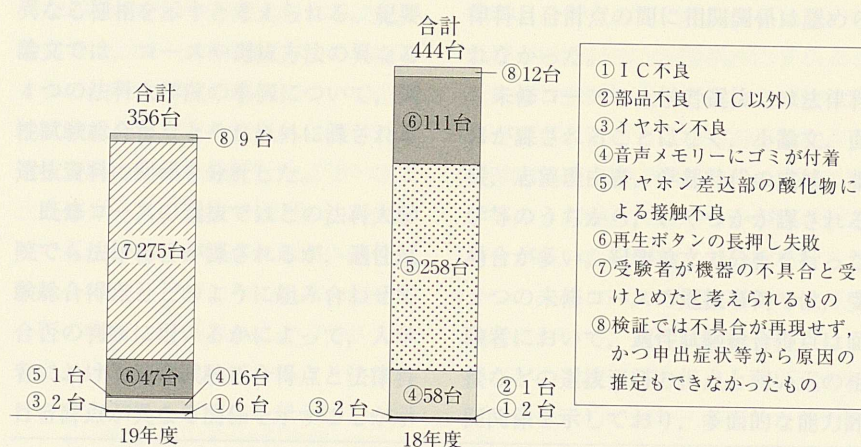


図 解答中に不具合等の申し出があったもの(19, 18年度)

昨年度の主な原因は、「④音声メモリーにゴミが付着」、「⑤イヤホン差込部の酸化物による接触不良」、「⑥再生ボタンの長押し失敗」だったが、これらは大幅に減少している。

昨年度の検証結果を踏まえて講じた対策が効果を発揮したものと考えている。3つのボタンを長押しにした結果、解答開始前にも「長押し失敗」が見られた(376台)が、再開テストにつながる再生時における失敗は大幅に減少した。

3. 今後の取組等

検証結果を踏まえ、機器の操作方法等の周知や試験室での指示の改善を行うことを考えている。同時に、この結果から、事前に受験者が実際の問題音声や機器操作に慣れておくことも適切であると思われる。実際の機器や大学入試センターのホームページの操作ガイドを活用して、慣れるようにしていただきたい。

